

## 造形教育研究部会

### I 部会研究テーマ

#### 1. 統一テーマ（小・中）

「豊かな創造性を育てる造形教育のあり方」

#### 2. 小テーマ（中学校造形教育部会テーマ）

「表現する意欲を高めるための授業のあり方」

### II 研究テーマ設定の理由

美術の授業は1週間に1回。2・3年生で年間35回の授業を行うことができれば完了だが、行事などの都合でそこまでできない場合が多い短縮時程になればなおさら学習に費やせる時間が減る。さらに担当の教師は1校1名が多く、教科のことを相談しようにも身近にその存在がない学校が多い。甲府市内に3校のみ2名の美術教師が配属されているものの、既に若手ではなく各校の中核を担う立場であり、他教科よりも多くの生徒の個別指導を行わなければならない上に、重要な公務の負担が覆い被さってくる。一人が担当する生徒数が500名前後の教師もいる。

ただでさえ多忙の中、短い授業数の中でどのような配慮や工夫が行われ、画一的で機能的な学習になり過ぎないように配慮しつつ、教材を開発していかなければならないのが美術教師の現状である。独りよがりにならないための組織を甲教協の中に見出している。

「美術は面白いけれど将来何の役に立つのか？」世の声（大人から・生徒から）はこんな風に囁く。行政の営みのように、完全に数値化した上で教科存在の根拠を論ずることはかなわない。しかし、美術が子どもたちの心の成長に関連した学習になることは、これまでの造形教育の成果を振り返ることで確認できる。絵が苦手でも得意でも関係なく、自分のイメージが現実の世界に事物として存在することへの驚きを再認識できるのが美術の学習の時間である。「夢が叶う」「思いが自分自身の力で実現する」という実感を得ることのできる数少ない教科である。単純な営みの中で、個人の課題を見出して、実現の方法を探り、実践し完成させる。いずれ味わうであろう「進路の実現」に向けた営みと似ている。作品の完成までに思い、考え、願ったり、迷ったり・・・そういうことを体験で学んでいく時間が美術なのである。

私たちが望む美術の学習は「芸術家の育成」ではない。だから、教科としての美術と一般的な芸術としての美術を混同して考えていてはならないのである。よい絵、悪い絵などと評価する大人の存在が、造形教育の明日を奪う。子供の造形的営みこそが重要であって、

作品の善し悪しは関係ない。そのことをわかった上で、造形教育を考えなければならないことを共有し、さらに子供たちが自分の意志で動き、自分の存在価値を得ることができるように学びをつくるのが大切だと考える。意欲は授業でつくられるのではない。授業は子供の学習意欲の向上がもたらす貴重な時間であることを再確認して、今年度の本部会(中学校部会)のテーマを考えた。

### Ⅲ 研究の経過と内容

部会開催日	会場	活動内容	一実践の発表計画	時間
6月18日(火)	美術館	学習会 講演会(講師招聘) 来年度の全国・関ブロ造形教育研究大会山梨大会の実施に向けて、授業改善の手立てを講ずるきっかけを得ることを目的として実施した		15:00～
7月31日(水)	城南中	学習会・指導案検討	城南中; 2名 東中; 2名の授業実践報告および県教研提案((北西中)の授業案検討を行った	9:00～
	アイムレ	夏季全体集会	—————	14:00～
8月16日(金)	美術館	学習会	上条中・南西中・北東中の授業実践報告を行った	9:00～
9月 3日(火)	美術館	学習会・指導案検討	富竹中・梨大附属支援学校・北中・南中; 1名の授業実践報告を行った	15:00～
10月 1日(火)	南 中	授業研究会	南中; 1名の研究授業参観と授業研究会を実施し、全国造形教育研究大会東京大会に向けての提案確認を行った 高橋教委(西中)の授業実践報告を行った	14:30～
10月26日(土)・27日(日) 県教研 北巨摩大会 北西中の提案				

11月 5日(火)	美術館	学習会・県教研の報告 県教研の提案の報告会を行い、今年度の活動を振り返った	15:00～
(12月 6日)	美術館	図工・美術作品展審査及び展示準備	15:00～
1月21日(火)	美術館	実技講習会「ホルベイン；新画材パンパステルの実技講習会を行った 反省・次年度への方向性確認を経て引き継ぎ完了	15:30～

#### IV 研究の成果と課題

県教研北巨摩大会にて、今年度は北西中学校の「水墨画」の実践を提案した。中学校のレポート報告は1年おきで行われるため、昨年度からの準備もあったが、北西中学校が県教委指定の学力向上研究の実践を推進していたため、研究内容に組み込むことで検討を進めていった。言語活動の充実を図る実践でもあったが、県教研の場では「子供の変容をどう見て対応を考えて行ったのか？」という指摘もあった。提案者からは生徒が主題を自ら見つけることができたことや作業に意欲的に取り組み、充実感を得ていたことなどの感想提示があった。

来年度はレポート提案がないが、全国・関ブロ造形教育研究大会山梨大会において甲府からの授業提供もあり、甲府市の中学校教諭一丸となってひとつの授業を行う意識で臨みたいと思う。現時点では南中から A 表現 (1) (3) の題材で授業を行うことになっており、既に内容の方向性も確認されている。

中学校の美術で得るべき「資質」や「能力」を4つの視点から確認し、「美術で得る4つの力」という解釈で学習の組み立てを行い、日常生活に生かすことを目標として授業を行っていくことを、実践を通して確認したい。

生徒自身が、楽しく有意義な時間を学びの中で感ずることができることを目標に、今後も自己研鑽を重ね、「芸術」にこだわりすぎない授業実践ができるよう努力していきたいと思う。そのためにも教師が生徒側の立場できちんと授業を検証し、学びが生きる題材の研究や授業の構成を工夫して行っていかなければならない。

来年度の全国・関ブロ造形教育研究大会山梨大会を大きなチャンスとして考え、H27年度のレポート提案へとつなげたい。